

久慈保育園『令和7年度自己評価』

保育所保育指針では、「保育内容等の評価」として『保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない』とされています。

今般、これに基づく自己評価を行いましたのでその結果を公表いたします。

対象者：全職員（園長1名、保育士15名、保育士助手2名、准看護師1名、調理師1名、栄養士1名、事務員1名 合計22名）

評価期間：令和7年12月25日～令和8年1月9日

評価項目及び集計結果：

【子どもの主体性と保育者の関わり】	各項目の回答数（％）			よくできている＝3点 ほぼできている＝2点 努力が必要＝1点 として集計した平均点
	よくできている	ほぼできている	努力が必要	
1 子どもの「やりたい」という意欲を先回りして止めず、十分に見守る時間が持てましたか。	18	73	9	2.09
2 活動の切り替え時、子どものペースを尊重し、余裕を持った声かけができていますか。	14	63	23	1.90
3 子どもの言葉にならない思いを汲み取り、適切な言葉で代弁していますか。	23	68	9	2.13
4 行事や活動の内容を決める際、子どもの意見や興味を取り入れましたか。	18	68	14	2.04
5 集団活動への参加を強制せず、その子の気持ちに寄り添った参加の仕方を認めていますか。	32	41	27	2.04
6 食事や排せつなどの生活習慣において、無理強いせず子どものペースを尊重していますか。	36	55	9	2.27
7 特定の子どもだけでなく、クラス全体の子どもに公平に関わりましたか。	36	55	9	2.27
8 子どものトラブルの際、すぐに解決策を提示せず、互いの気持ちを聴くことができましたか。	23	68	9	2.13
9 否定的な言葉（「ダメ」「早く」など）を使わず、肯定的な言葉かけを意識していますか。	23	54	23	2.22
10 子どもの発見や気づきに共感し、一緒に驚いたり喜んだりできましたか。	50	50	0	2.50

【現状・課題】

- ・子どもの思いや意欲などを受け止め、共感的に関わることを心掛けている傾向が高い。
- ・クラス全体の子どもに対する公平性についても配慮がなされている。
- ・一方、時間的な制約がある中で集団で活動（生活）するという特性上、子ども一人ひとりの意向を許容することが難しい場面もある。
- ・子どもに対する言葉の掛け方においても、保育者自身がゆとりを持った対応を意識するなど改善の余地がある。

【環境構成について】	各項目の回答数（％）			よくできている＝3点 ほぼできている＝2点 努力が必要＝1点 として集計した平均点
	よくできている	ほぼできている	努力が必要	
1 子どもの発達や興味に合わせ、玩具や絵本を随時入れ替えていますか。	18	55	27	1.90
2 片付けの際、子どもが戻しやすいような表示や収納の工夫がされていますか。	23	63	14	2.09
3 子どもの作品や活動の記録が、子どもの目線の高さに掲示されていますか。	14	48	38	1.76
4 季節感や自然を感じられる素材（木の実、花、季節の装飾など）を環境に取り入れていますか。	19	57	24	1.95
5 休息したい子どもが、落ち着いて過ごせる場所（コーナー）が確保されていますか。	14	45	41	1.72
6 食事や排泄などの生活スペースは、清潔で安心して過ごせるよう整えられていますか。	32	68	0	2.31
7 安全点検はチェックリストの目視だけでなく、子どもの動線を意識して行われていますか。	18	59	23	1.95
8 部屋の照度、温度、換気など、快適な室内環境を常に意識して調整していますか。	59	36	5	2.54
9 地域の生活や季節の行事に興味や関心をもつように、話をしたり目にする機会を設けていますか。	32	59	9	2.22
10 保育者自身が、環境の一部として適切な立ち位置や表情を意識できていますか。	27	64	9	2.18

【現状・課題】

- ・衛生面や温湿度など日常的な室内環境について適切に保つことへの配慮がなされている。
- ・玩具の収納スペース、作品の掲示場所、子どもが休息できる場所など現状の設備のなかでは十分なスペースを確保できない課題がある。
- ・また、子どもの年齢によって適切な環境のあり方が異なってくるため同じ条件での評価に難しさがあった。
- ・安全点検に関してはチェックリストのみに依存しすぎない視点も必要である。

【職員間の連携と保護者支援】	各項目の回答数 (%)			よくできている=3点 ほぼできている=2点 努力が必要=1点 として集計した平均点
	よくできている	ほぼできている	努力が必要	
1 職員間で「子どもの姿」や「成長の喜び」を日常的に共有できましたか。	41	59	0	2.40
2 クラス内だけでなく、他のクラスの職員とも情報共有ができていますか。	18	55	27	1.90
3 報告・連絡・相談（ホウレンソウ）は、タイミングよく行えましたか。	18	68	14	2.04
4 会議や打ち合わせでは、建設的な意見交換ができていますか。	24	52	24	2.00
5 登降園時の保護者対応は、丁寧かつ明るい挨拶ができましたか。	50	45	5	2.45
6 保護者へ子どもの様子を伝える際、「できたこと」や「エピソード」を具体的に伝えていますか。	24	57	19	2.04
7 お便りや掲示板などで、保育の意図や子どもの育ちを分かりやすく発信していますか。	24	62	14	2.09
8 保護者からの要望や相談に対して、傾聴する姿勢を持ち誠実かつ迅速に対応していますか。	24	62	14	2.09
9 行事の際、保護者が子どもの成長を感じられるような工夫や配慮がなされていますか。	33	38	29	2.04
10 自身の健康管理やメンタルヘル스에気を配り、安定した状態で勤務できましたか。	18	32	50	1.68
【現状・課題】 <ul style="list-style-type: none"> 職員間で子どもの姿などを日常的に共有することができている。今後は、さらに他のクラスの職員とも情報共有を深めることにより園全体としての連携強化を図ることができる。 保護者への対応について丁寧に接することの意識は比較的高くみられる。さらに保護者が子どもの育ちを実感できるような伝え方の工夫が必要である。 職員自身の健康管理についての評価が低い傾向にあり、業務の効率化・負担軽減の対策や福利厚生の実施なども検討する必要がある。 				

総評：

<p>【強みとして表れた点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの主体性を尊重し共感的に関わることを心掛けている傾向が職員全体に見られた。 職員間の連携が日常的に図られており、さらに園全体としての情報共有への波及が期待される。 保護者への対応を丁寧に行うことの意識が高く見られた。 <p>【改善が必要と思われる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者自身が、健康を維持しながら時間的にも気持ちのうえでも余裕をもって子どもに関わることができるための業務の効率化・業務負担の軽減。 限られたスペースの中での環境構成の見直しや配置の工夫。 保護者へのより効果的な伝え方や、職員間での意見交換をより充実させるための発信スキルの向上。
--

久慈保育園『令和6年度自己評価』

保育所保育指針では、「保育内容等の評価」として『保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない』とされています。

今般、これに基づく自己評価を行いましたのでその結果を公表いたします。

対象者：全職員（園長1名、保育士13名、保育士助手3名、准看護師1名、調理師1名、栄養士1名、事務員1名 合計21名）

評価期間：令和6年11月28日～令和6年12月6日

評価項目：AD尺度（教師の自己評価用）

AD尺度（教師の自己評価用）	
これは、保育者自身が子どもとのよりよい関係を知るために行うものです。 日頃の子どもとのかかわりで、あなたの感じていることを、 そのまま正直に教えてください。 (あなたの感じていることにもっとも近い番号をつけてください。)	
とてもよくある→5 よくある→4 普通→3 あまりない→2 まったくない→1	
内 容	評 定
(1) 私は、子どもがきちんと行動するようにいう	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(2) 私は、子どもがじょうずにできるとほめるようにしている	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(3) 私は、子どもが活動中にさわりだりすると注意する	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(4) 私は、子どもが保育園等を休むと心配する	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(5) 私は、こどもがふざけるとしかる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(6) 私は、子どもがうれしいときには、いっしょになって喜ぶ	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(7) 私は、子どもに活動中には自分のほうを見るようにいう	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(8) 私は、子どもがこまっているとき、相談（かかわる）にのる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(9) 私は、子どもに持ち物の管理をするようにいう	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(10) 私は、子どもにきまりをまもるようにいう	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(11) 私は、子どもの作品をていねいに見るようにしている	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(12) 私は、子どもが活動中に、一つの結果を出す（答える）まで見守る	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(13) 私は、子どものやりたいことがわかる	5 - 4 - 3 - 2 - 1
(14) 私は、子どもに身の回りの後片付け（整理・整頓）をするようにいう	5 - 4 - 3 - 2 - 1
記入： 月 日 名前	
受容（A）項目は、(2)、(4)、(6)、(8)、(11)、(12)、(13)である。	
要求（D）項目は、(1)、(3)、(5)、(7)、(9)、(10)、(14)である。	
出典：嶋野重行『福祉と教育のマネジメント 人間関係をよくするための方法』 株式会社PHPエディターズ・グループ 2023年	

評価内容：

- ・受容（A）：子どもを認める、共感する、無条件に理解する、関心を持つといった「考え方や気持ちを認める態度」
- ・要求（D）：子どもに考えや思いを伝える、社会のルールを教える、しつけるといった「考えや価値、気持ちの表出を求めていく態度」

この二つのバランスから自分のタイプを把握し、子どもに対する態度を振り返るとともに改善に役立てる。

集計結果：

タイプ		人数	割合
A D型(ラージ AD型)	A D 2つの評定がともに平均値より高い	13名	62%
a d型(スモール ad型)	A D 2つの評定がともに平均値より低い	2名	9%
A型	Aが高くてDが低い	5名	24%
D型	Aが低くてDが高い	1名	5%

- ・受容と要求のバランスが良い職員（AD型）の割合が最も高い（62%）
- ・次いで、受容する傾向が高くて要求の機能にやや低さがみられる職員（A型）の割合が高くなっている（24%）
- ・要求の評定が低い傾向にある職員には、直接的にクラスを担当していない職種（保育士以外）が多くみられるが、一部の保育士においてもその傾向はみられる
- ・全体の平均値は、受容（A）が25.5点、要求（D）が22.3点であった

総評：

- ・子どもに対する自分自身の態度を客観的に振り返り自覚することで、良かったと思われる点や改善すべきと思われる点の気づきが得られた。
- ・保育園全体で見た場合に、受容と要求のバランスがとれている職員が比較的多いことが確認できた。また、保育士以外の直接クラスを担当しない職員であっても、子どもと関わるうえでの視点を認識することにつながった。
- ・子どもに対する態度の振り返りが中心の評価項目であったが、同時に他の職員との関係性についても考慮するきっかけになった。
- ・今後は別の視点で自己評価をしてみるものの有効性も認識することができた。